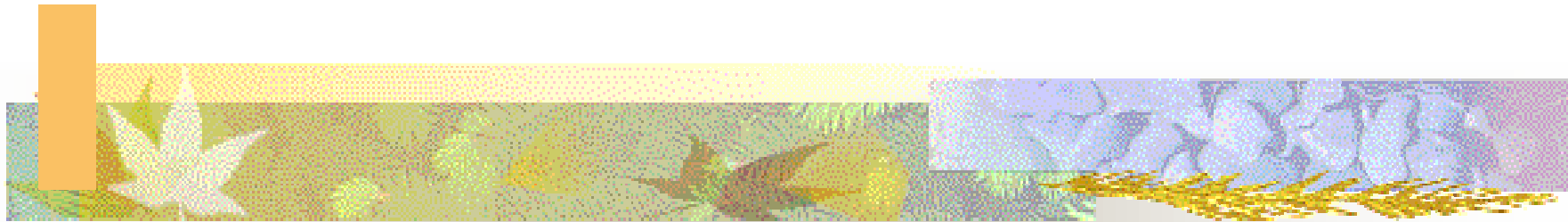


2003/6/23 日本病院ボランティア協会講演（於 大阪国際会議場）

病院ボランティア・コーディネーターの あり方と課題

全国調査からの示唆



九州大学 大学院人間環境学研究院

安立清史



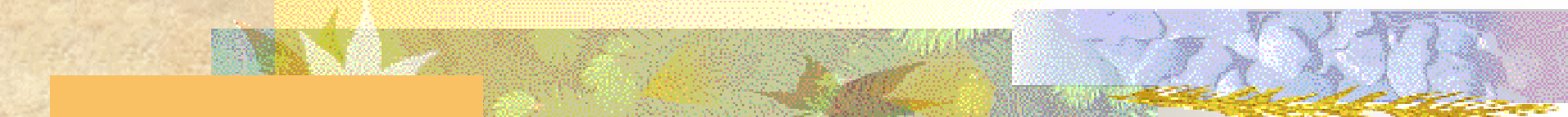
今日の要点

- 病院ボランティア全国調査（2002）の結果からみた
 - コーディネーターの概況
 - コーディネーターの活動内容
 - コーディネーターへのニーズとは
 - コーディネーターの効果
 - コーディネーターの課題
 - まとめ



病院ボランティア・コーディネーターとは

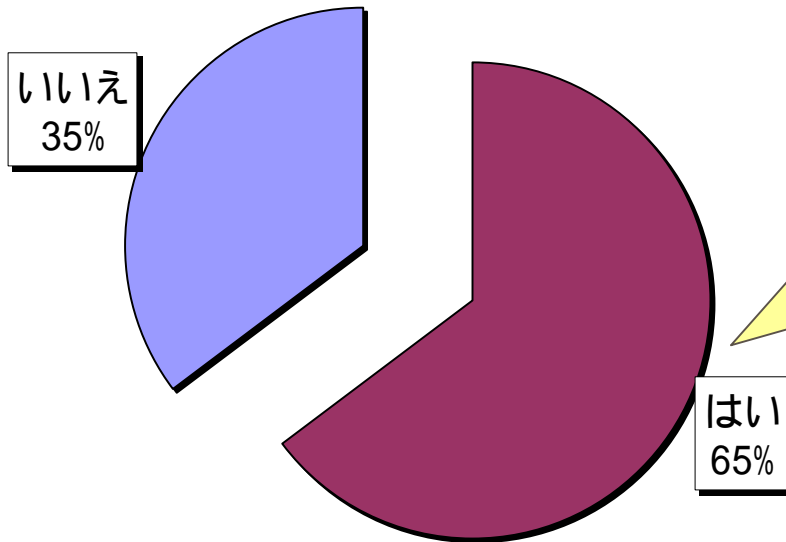
- 病院とボランティアとの結びつけ、調整し、活動が発展するようにサポートする役割
 - 病院側からの要望をボランティアに伝え
 - ボランティアからの要望を病院につなげ
 - 病院側のボランティア理解を深め
- ボランティアの自己実現やエンパワメントにつながるような活動コーディネートを行う役割



アンケート調査からみた 病院ボランティアコーディネーターの活動内容

- **病院へのボランティアの受け入れ**
 - ボランティアの募集、面接、受け入れ、オリエンテーション
- **コーディネート**
 - 活動場所への導入、配属、
 - 病院とボランティア、ボランティア相互間、患者さんとボランティア、との連絡・調整
- **サポート**
 - 活動状況の把握、研修、相談
 - グループ運営の支援
- **エンパワメント**
 - 活動内容の検討、見直し、理念や目標の検討...
 - 新しい活動への展開、実施
 - やりがいある活動づくりへ

ボランティア・コーディネーターがいますか (n=147)

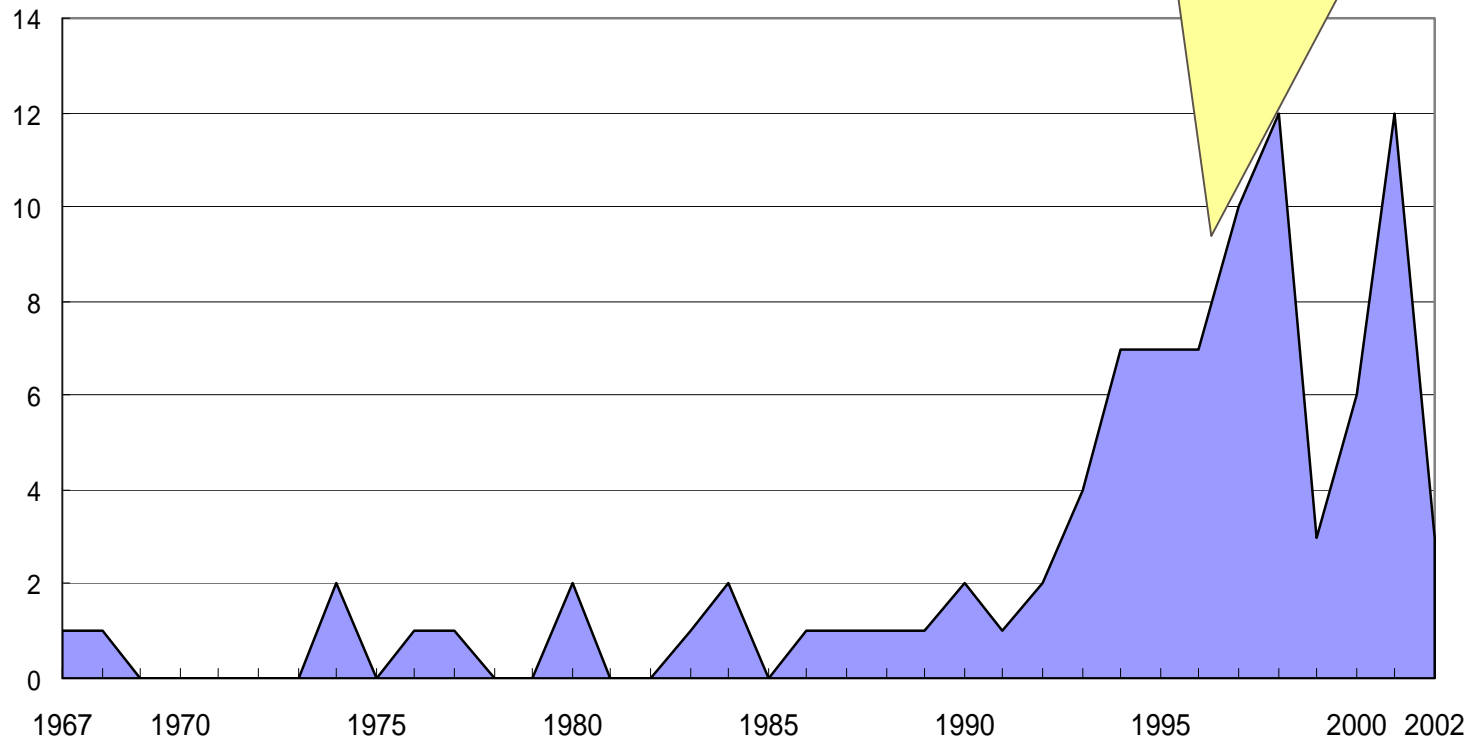


予想以上に
ボランティア・コーディネーターは
普及してきて
います。

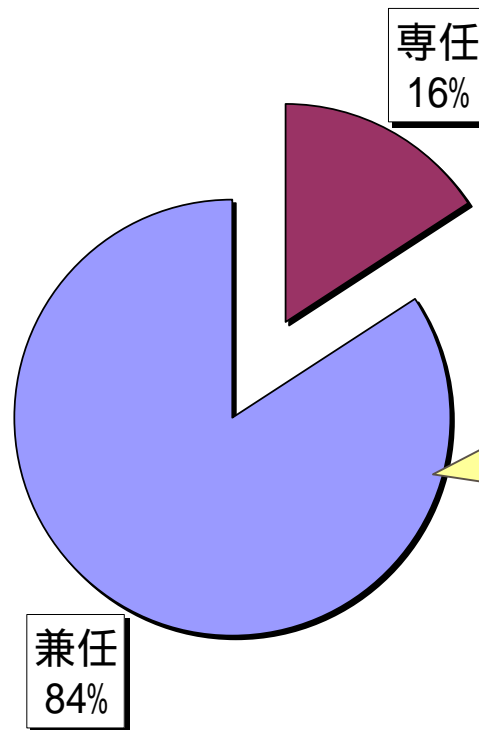
ボランティア・コーディネーターは、
1995年前後から普及しはじめた
新しいものなのです

ボランティアコーディネーターはいつから活動していますか

団体数



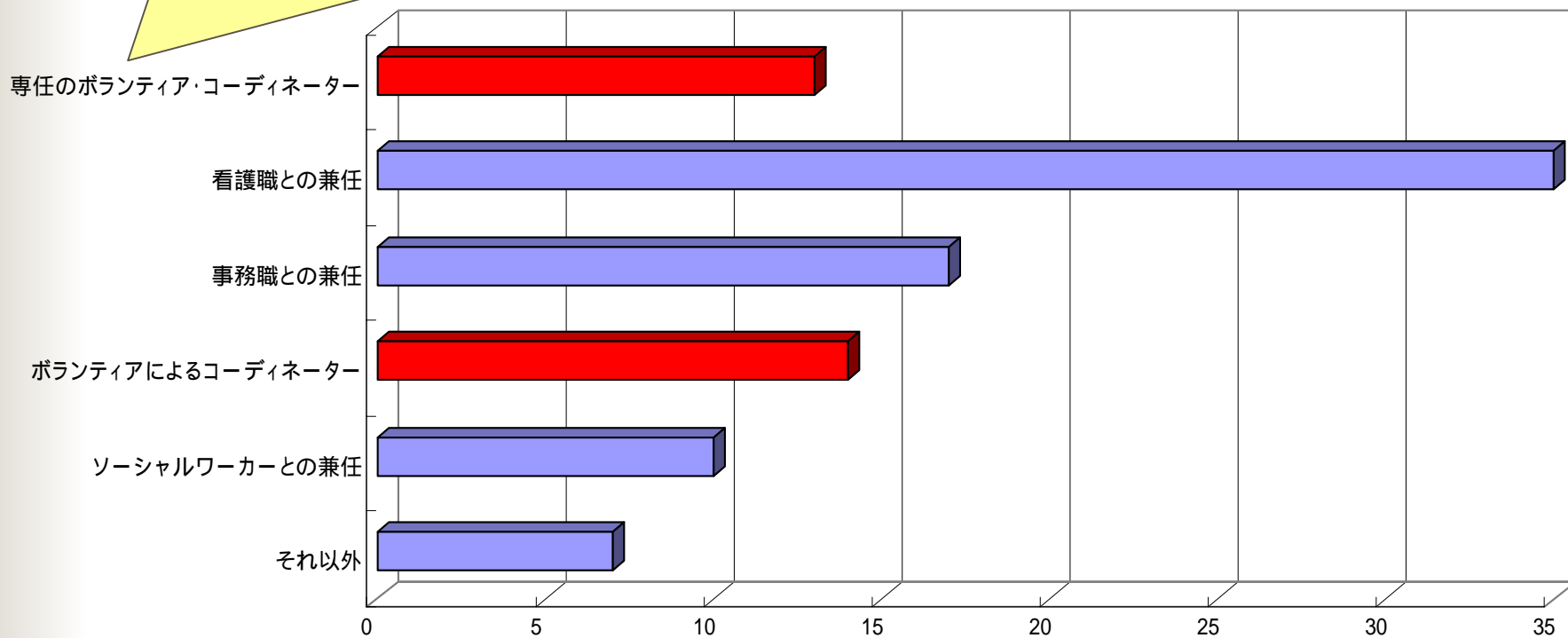
ボランティア・コーディネーターは専任ですか兼任ですか (n=94)



コーディネーターは、病院職との兼任がほとんどです

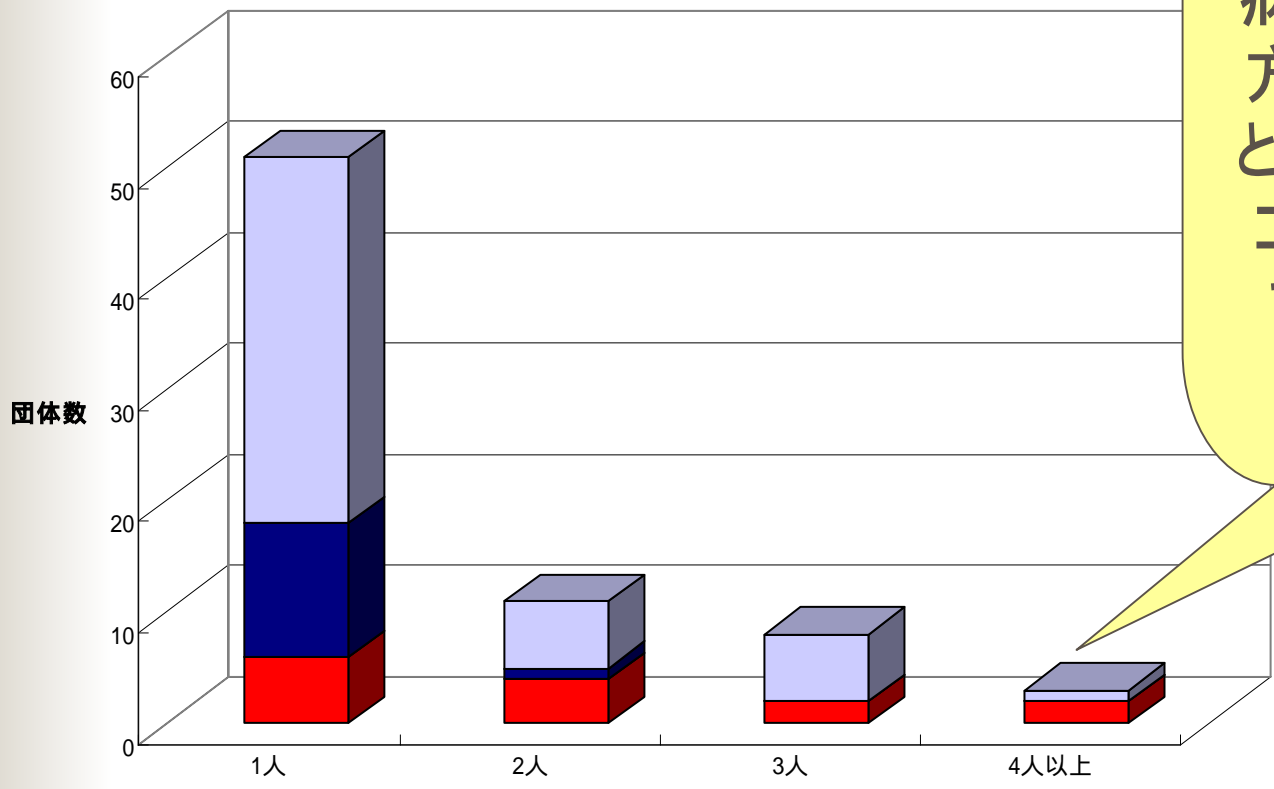
専任のボランティア・コーディネーターは、
まだ多くありません。
ボランティアの参加によるコーディネート
もこれからの課題のようです

n=96



団体数

ボランティアコーディネーターの人数と兼職状況 n=73



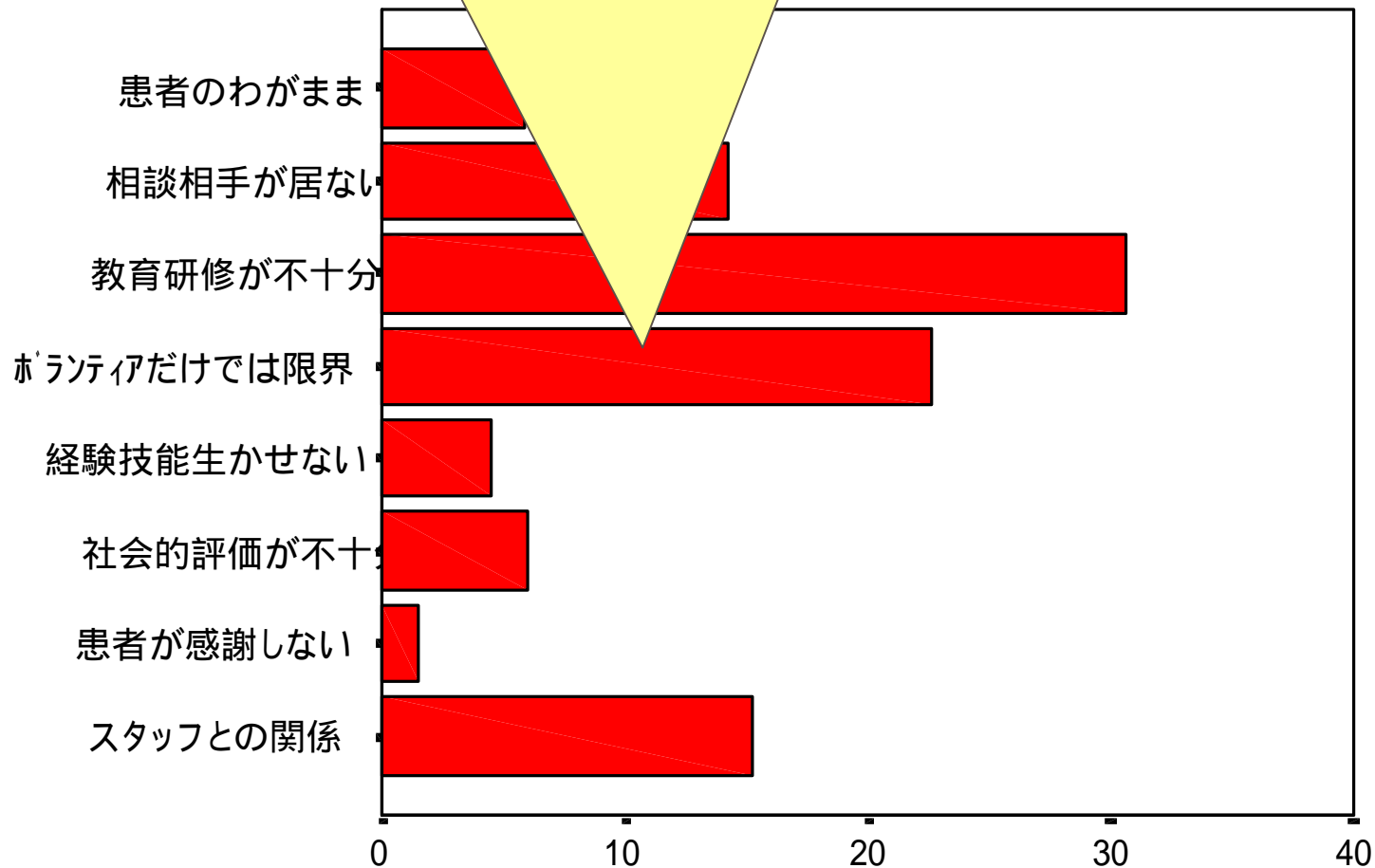
複数のボランティア・コーディネーターがいるところでは、病院側の兼職の方とボランティアとが共働しながらコーディネートしているようです



ボランティアコーディネーターへのニーズ

- 1998年「関東地区病院ボランティアの会」での調査と1999年「日本病院ボランティア協会」での調査とをあわせて考えると...
- **研修機会、相談相手、スタッフとの関係、病院側の理解** **ボランティアだけでは限界を観じる**
- このようなボランティアのニーズをどう解決していくかも、コーディネーターの役割

相談、研修、関係の調整だけではありません。
もっと幅広いニーズがあるのです。

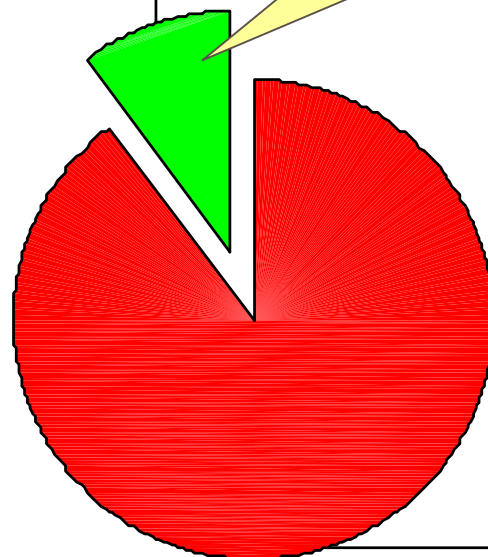


%

悩みの相談相手はいるか

いない

10.3%



10人に一人は、活動していて悩みがあっても、相談相手がいないのです

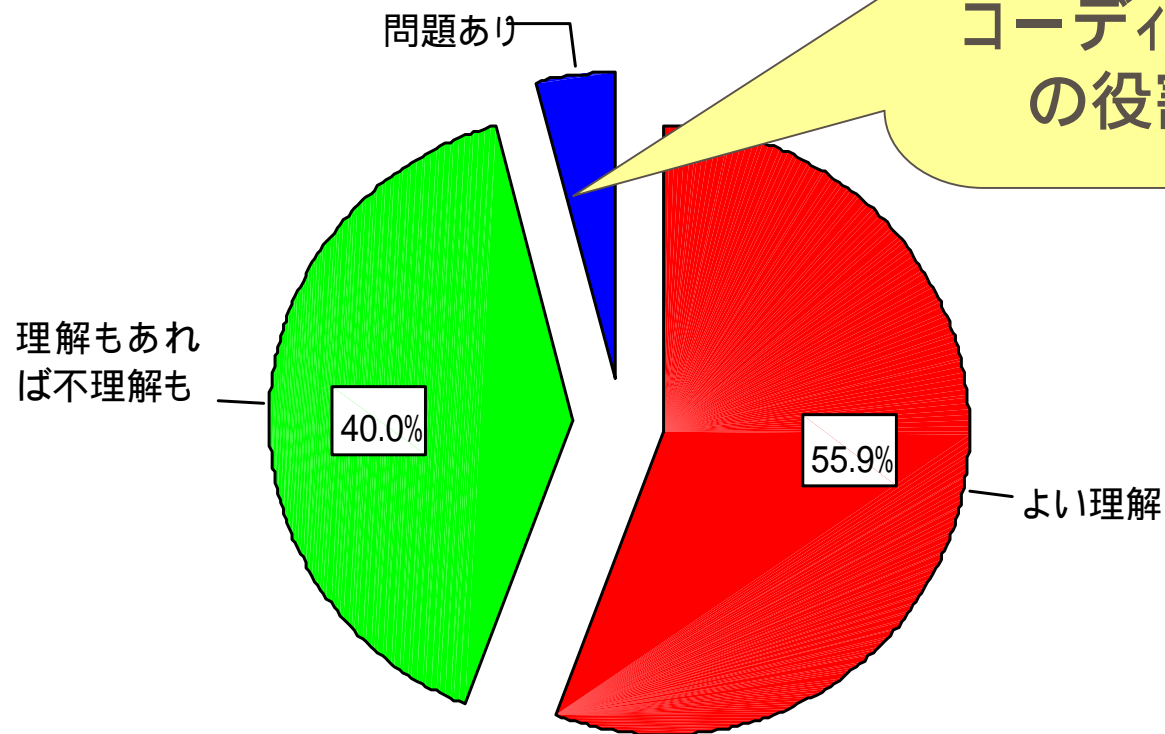
いる

89.7%

活動をはじめて1年以内と3年くらいでやめていく人が多いようです。
こうしたボランティアへの支援やサポートも必要です。

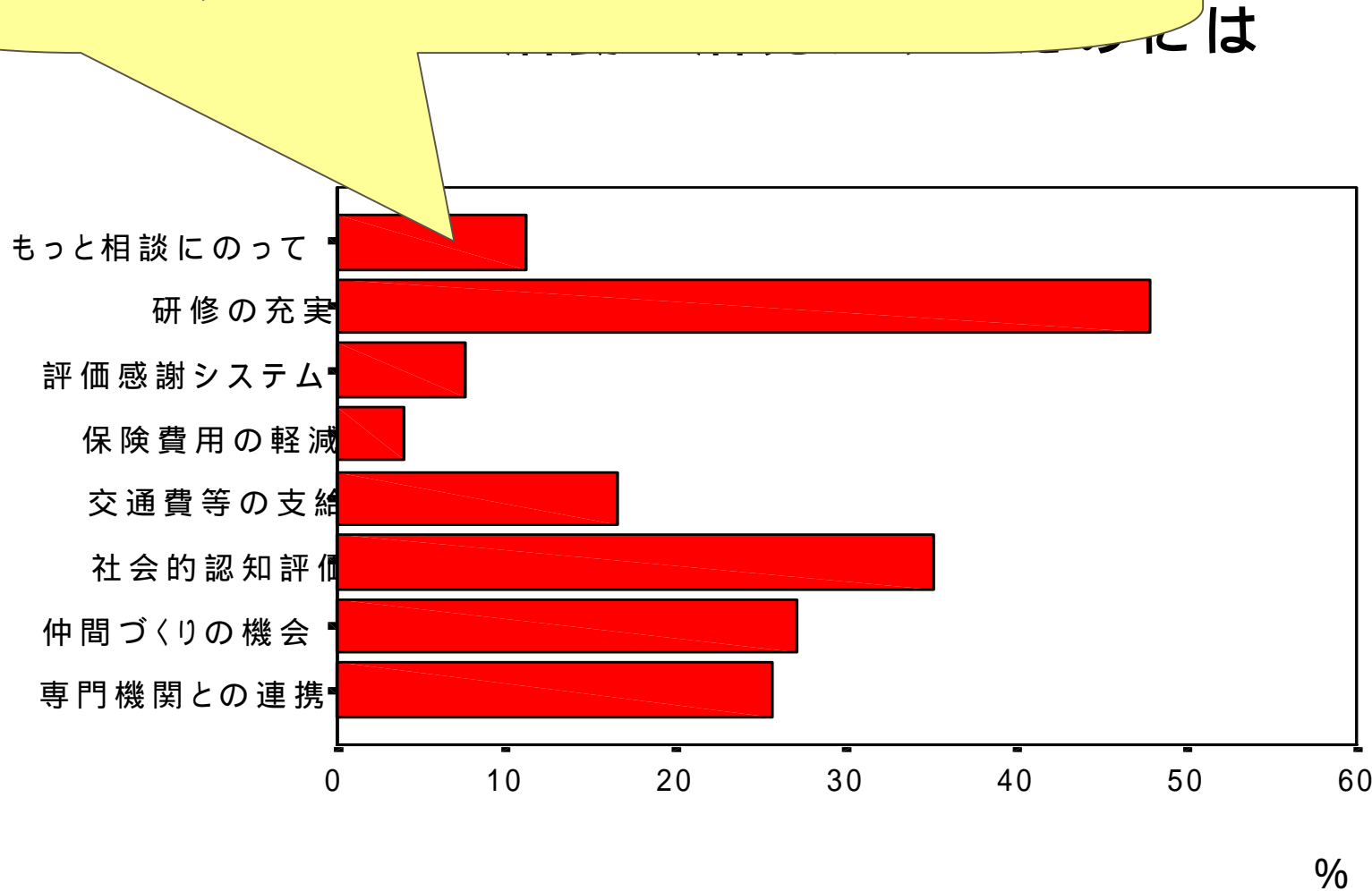


病院側の理解はどうか



病院に、ボランティア活動の理解を深めてもらうのも
コーディネーターの役割です

連絡調整だけでなく、ボランティアの支援やエンパワメントにつながる活動がコーディネーターに求められています





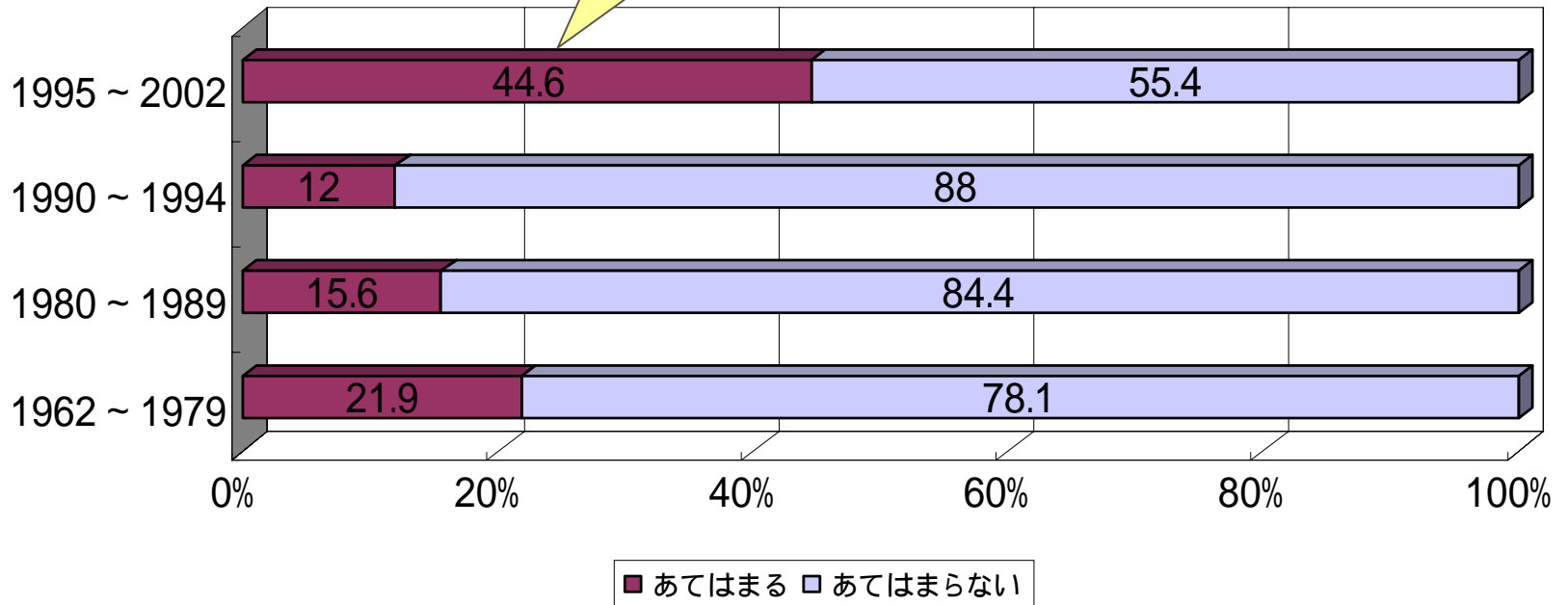
病院ボランティア・グループの活性化

病院ボランティアグループ調査（2002）からの発見

- 新しいグループは活動発展の壁を感じている
- 新しいグループは目標や理念のボランティアメンバーへの浸透に悩みを感じている
- 古いグループはメンバーの高齢化、リーダーの交代など活動やグループの運営に問題を感じている
 - コーディネーターの関わりも必要

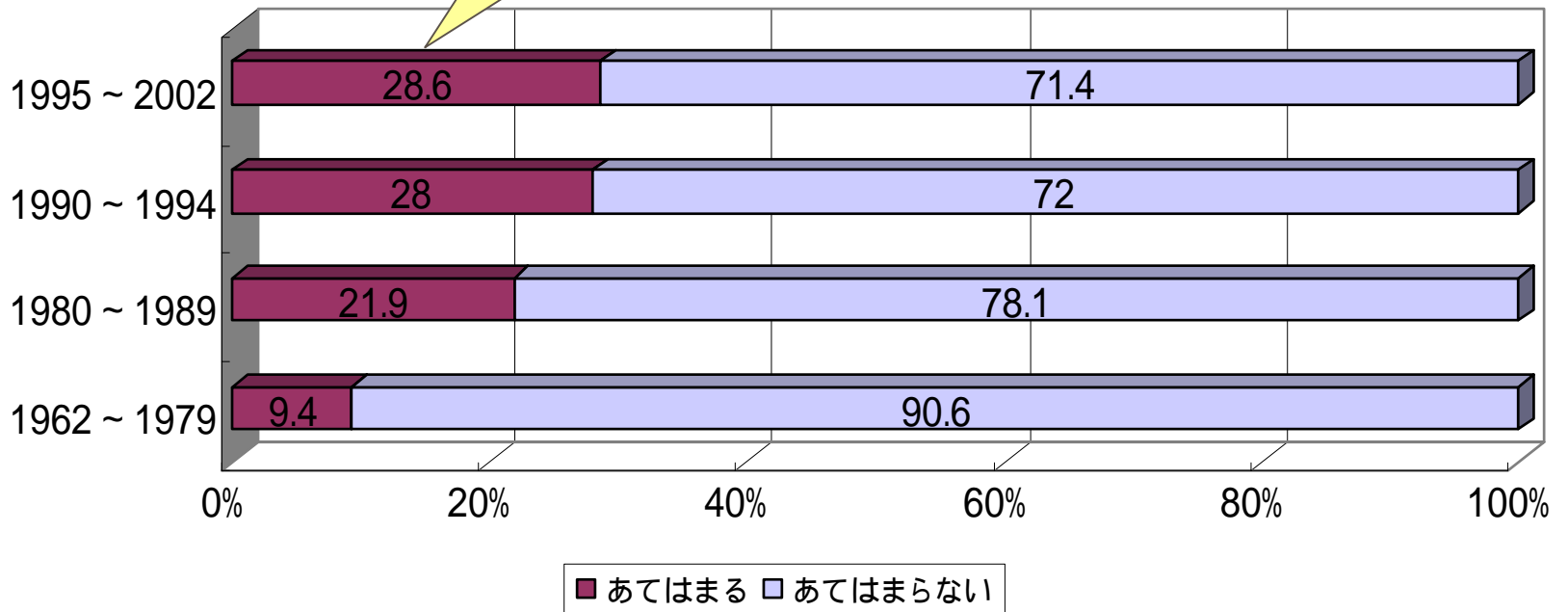
若いグループも、古いグループも、それぞれ悩んでいるのです

年代別にみたグループの課題 (活動のマンネリ化)



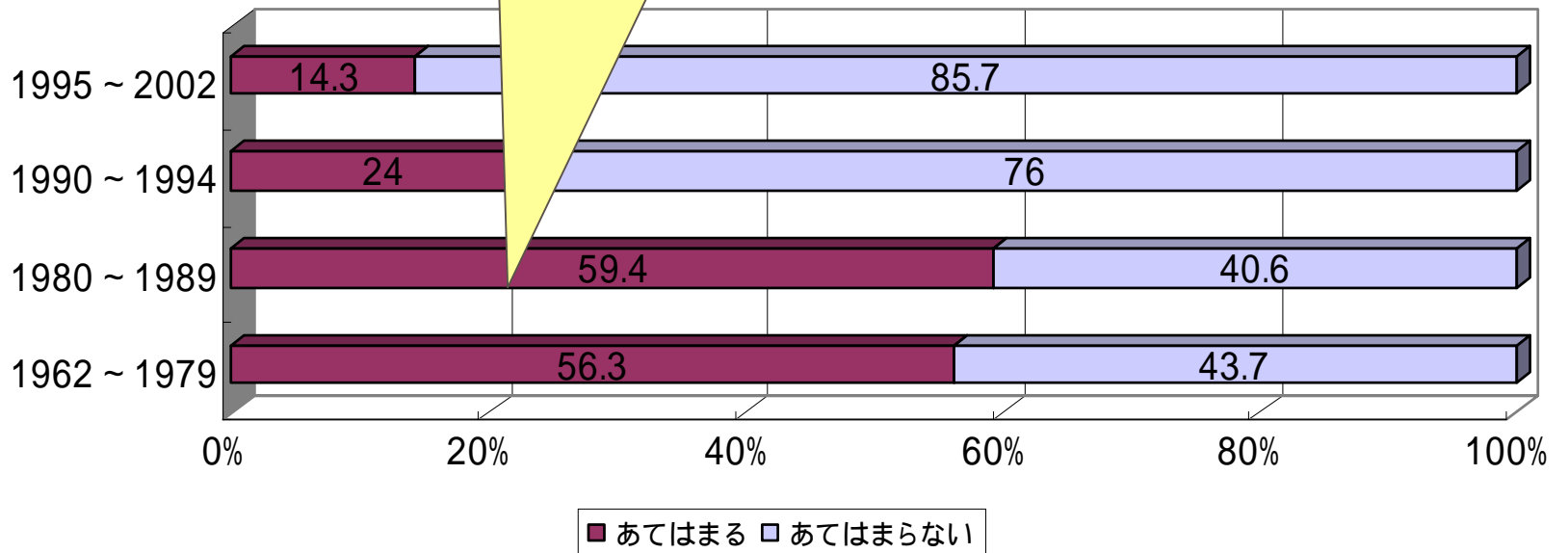
若いグループは、活動の理念
や目標で悩んでいます

年代別にみたグループの課題（理念や目標の浸透）



活動歴が長いグループも、いろいろな悩みや課題があってコーディネーターの関わりが必要です

年代別にみたグループの課題（メンバーの高齢化）





病院ボランティアコーディネーター の効果

- ボランティア・コーディネーターがいると…
 - ボランティア数が増える（ボランティア数が多いとコーディネーターが必要）
 - 病棟での活動内容が増える
 - ボランティアの自立やエンパワメントにつながる
 - 病棟や緩和ケア、ホスピスでは必須



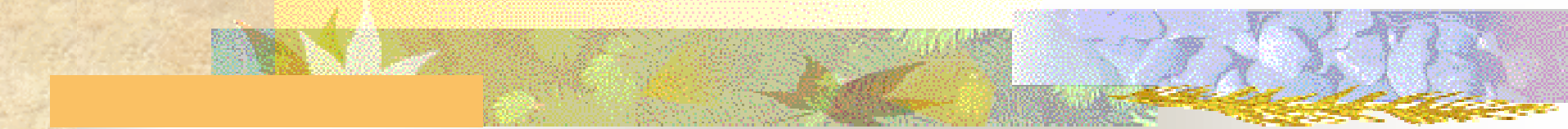
病院ボランティアコーディネーターの効果

- 病院ボランティアコーディネーターがいるとボランティア活動に次のような方向性が生まれる・・・
 - 病院を開かれたものにしたい
 - 自己実現の機会をつくる
 - 研修・講習・勉強の機会をつくる



兼職でなく専任の ボランティアコーディネーターがいると

- 活動の内容や方法の見直し、改善につながる
- ボランティア活動のルールの見直し、改善につながる
- 活動の曜日の違うボランティア相互の連絡・調整がうまくいく
- 精神的な支援につながる



病院側からだけでなく、ボランティア側からもコーディネーターが出ると

- グループとして次のような方向性が出てくる
 - 暖かな雰囲気をつくる
 - 自己実現の機会をつくる
 - ボランティア仲間との交流機会をふやす
 - 患者さんに喜ばれるような活動をしたい



病院ボランティアコーディネーター の課題

- 病院とボランティアとの調整だけでなく、ボランティアのエンパワメントにつながるようなコーディネートをする
- 病院側にもボランティア活動の理解を深めるような働きかけをする
- 病院側とボランティア側からの共同のコーディネートが効果的
- 専任のコーディネーターが可能ななら、さらに効果的



もっと詳しく知りたい方は

- 九州大学・安立研究室のホームページをご覧ください
 - [Http://www.lit.kyushu-u.ac.jp/~adachi/](http://www.lit.kyushu-u.ac.jp/~adachi/)
- ご連絡下さい。
 - Adachi@lit.kyushu-u.ac.jp